

(様式1)

令和元年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立菊川小学校
校長名	柿沼 広美

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・国語の経年比較において、3年生から6年生まで全ての学年で全国平均を超えた。校内研究で国語の「書く」ことについて継続して取り組んできた成果が出ていると考えられる。・2年生と5年生の理科以外で標準スコアを超えた。対象児童をD・E層にポイントをしぼり、基礎基本の定着を図った放課後学習教室「学びの扉」を実施した成果であると考ええる。	<ul style="list-style-type: none">・2年生の国語・算数が全国平均を下回っている。日々の授業はC層に基準を置きつつ、D・E層を落ちこぼれさせないための手立てを入れて授業を行う。基礎基本が定着しない児童には個別指導を行い、児童全体の学力向上に努める。・5年生の理科が、全国の平均正答率と比べて5.7ポイント下回っている。特に「活用問題」と「自然事象への関心・意欲・態度」について正答率が低かった。日々の授業で「問題」「見通し」「予想」「まとめ」「考察」の展開を丁寧に行い、児童の意欲の向上と事象や実験結果から考える時間の確保に努める。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・「近所のひとに会った時にあいさつをしていますか」については全学年で「いつもする」か「だいたい自分からする」と回答している。学校や地域で挨拶をする習慣が身に付いてきていることがわかる。・「勉強でわからないことは誰に聞きますか」では「家の人に聞く」と回答した児童が全国平均を全学年で上回っており、家庭での学習に対しての協力が得られていること、家庭でのコミュニケーションが充実していることがわかる。	<ul style="list-style-type: none">・「テストの見直しをしていますか」では「いつも見直しています」と回答している児童が、学年が上がるにつれて減っている。全学年で最後の見直しを行うことを徹底していく。・中学年において「ノートを後で見直せるように、丁寧に書いていますか」について「いつもそうしている」と回答している児童が全国平均を下回っている。学力向上委員会を中心にノート指導について見直し、学校として統一したノート指導に取り組めるよう研究していく。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・菊川幼稚園、堅川中学校、中和小学校との連携を行い学習規律の徹底と学習習慣の定着ができてきている。	・全学年で共通した指導方法を研究し、共有する必要がある。また読書をする習慣を身につけさせる必要があるため、図書館司書・図書ボランティアとの連携を積極的に実施する。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 「書くこと」に重点化した指導

校内研究で、「書くこと」を通じた言語活動の充実を図っていることにより、児童の書くことに対する抵抗感が少なくなってきた。また話し合い活動では具体的にどのような話し合いが有効かを校内研究で確認し、共通理解を図ることができている。国語科で身に付けさせた話し合いの仕方を他教科でも生かせるようになってきている。今後も継続して取り組み学校全体で共有していく。

(2) 個別対応の充実

算数科における授業では習熟度別少人数指導を徹底して実施したことにより、各層に応じた授業内容を行っている。また、教員間で指導内容を共有することで統一した指導を行うことができている。放課後教室「学びの扉」において学年として定着が不十分な内容に立ち戻る指導の充実を図る指導を行っている。また支援員を放課後教室に配置することで、通常授業時と補習とで一貫した指導体制をとることができた。

(3) 思考力判断力の向上に向けた授業改善

校内研究を通し、ノート指導の大切さを共通理解している。学年で共通したノート指導を行い児童の「書く」力も上がってきている。国語科における深い学びに向けた、主体的・対話的な授業に関する指導展開の共通理解を図る。ICT機器を利用した板書計画の工夫をすることで、児童の学習に対する意欲向上を促す。

学び合いの時間では、「自分の考え」を伝え合う活動を行う。低学年では二人組から指導し、高学年の3人などのグループにつなげていく。また伝えるだけではなく「比較」「共通点」「相違点」などの視点から話し合いを行い、よりよい考えを創り上げていく。

3 「令和2年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・全学年全教科で全国の正答率を上回る結果を出す。
- ・区学力調査と平行し、全国学力調査・都学力調査において今年度の課題分析し、を明確化して取り組み、弱点となっている課題を解決する。
- ・学力調査の対策を行うだけでなく、日々の授業の課題を全教員で省察する。学力がつく授業について教員間でコミュニケーションを図りながら追究し、児童の学力向上を引き続き推進していく。